
箱庭物語

ゴルゴダ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

箱庭物語

【Nコード】

N4551BA

【作者名】

ゴルゴダ

【あらすじ】

迷宮と契約させられて迷宮の主になってしまった男。
生きていくために（迷宮の中で）頑張る、山も谷も無い物語。ゆっくり進みます。

オリジナルのステータスがかなり分かりにくいかも知れません。
また、淡々とした物語です。
暇潰し程度に読んでいただければ嬉しいです。

王様誕生です！

「王様！ 朝ですよ！ 今日も頑張りましょう！」

無駄に元気な声に起こされる。『迷宮』は今日も元気らしい。

起き上がり辺りを見渡す。そこは土をくり抜いたような小さな空間だった。その土で出来た小さな空間に僕が寝ていたベッドが置いてある。

とりあえず、昨日の出来事を思い出す。

この世界には多くの国や町、村や集落、そして迷宮が在る。

村や集落は人が集まれば自然に出来る。その村や集落が発展し、人の数が増えれば町となり、やがては国となる。

では、迷宮は？

迷宮とは生き物である。その迷宮の王となる者を迷宮自らが決め、自身の中に連れてきて、そして一方的に契約を結んでしまうらしい。たまたまその話を街に薬草を売りに来ていた時に聞き、一方的に契約して……詐欺？ と思っていた帰り道に、この迷宮の前を通り過ぎてしまったらしく、迷宮に引きずり込まれてしまった。びっくりしている間に、

「契約完了しました！ 王様、今日からよろしくお願いします！」

と元気に言われた。

この声は迷宮の声らしい。王様しか聞こえないようである。

……迷宮の契約は、どうしようもない程の早業だった。

幸いにも迷宮の外に出ても問題はないらしいので、特に困ることはないと思っていた。

だが、契約完了の後、迷宮の王様としての初歩的なことを教えてもらった時、冷や汗が止まらなかった。

契約を結ぶとその迷宮の主、即ち王となる。王となった者は迷宮の中を『迷宮パワー』と言う物が有る限り、自由に変化させることが出来る。

……逆に言うなら、迷宮パワーが無ければ何も出来ないと言うことである。どうでもいいけど、どうして迷宮パワー何だろうか？ 迷宮力でも良い気がする。

迷宮パワーは1日の始まりである零時に少しだけ増えるらしいが、侵入者を倒しても増えるようで、むしろそっちの増やし方が当たり前らしい。その侵入者が強ければ強い程、迷宮パワーも多くもらえるらしい。

侵入者を倒すための方法は、基本的には罨や防人を使うらしい。

罨とは迷宮の中に落とし穴や槍が飛び出る壁などである。防人とは簡単に言えば迷宮内を徘徊するモンスターのことだ。王様や防人以外に攻撃を仕掛けるらしい。また、迷宮ごとに作成出来る物が変化するらしく、この迷宮の防人は今のところは無機物なものだけらしい。つまり、ゴーレムやガーゴイルなどだけしか作れない。

また、罨も防人も作成するには迷宮パワーと素材が必要になるらしい。

例えば、ストーンゴーレムならば石が必要となる。

また、罨は破壊が解除、防人は壊れなければ、勝手には無くならず、維持され続けるらしい。

だが、防人には迷宮コストと呼ばれる物が有るらしく、1日の始まりである零時に迷宮パワーが迷宮コスト分減るらしい。

更に、迷宮が発展すると迷宮評価と呼ばれる迷宮のレベルのような物が上がり、より良い迷宮変化や、優れた罠や防人も作成出来るようになるらしい。

……此処までは良かった。しかし、この後の説明を聞かされた僕は冷や汗が止まらなくなった。

迷宮は契約を完了した王様と契約と同時に命も結ぶ。

故に、王様が亡くなると迷宮も崩壊する。

迷宮パワーが無くなった場合も迷宮が崩壊し、命が結ばれた王様も亡くなる。

また、迷宮パワーは厳密には王様の中に蓄えられるので、迷宮パワーが残っている状態で王様が亡くなると、迷宮パワーが結晶となって現れる。その結晶は魔物の進化の可能性を引き上げる効果が有り、迷宮評価と迷宮パワーの量が多ければ多い程効果が上がる。よって、迷宮評価が高くなればなるほど、迷宮パワーが多く有れば有るほど、それを狙う魔物の侵入者の質と数が増えていく。

また、侵入者を倒すと遺体が迷宮に吸収され、それが迷宮パワーとなる。だが、魔物の侵入者からは牙や爪など一部の素材が残る。

その素材はもちろん、結晶もその見た目の美しさから人間の市場で高値で売れるため、それを狙う人間の冒険家や盗賊なども侵入して来るようになる。

更に余りにも強力な魔物も呼び寄せるまでに迷宮評価や迷宮パワーが上がると、その魔物に依る被害から、冒険者ギルドと呼ばれる依頼斡旋をする何でも屋のような組織が被害者などから討伐を依頼され、その依頼を受けたギルドの人間がやって来るようになり、更に魔物の危険が増したり、被害が増えると最終的には国が動き出し、騎士団などがやって来るようになるらしい。

説明を聞き終えた僕は、冷や汗が止まらなかった。
つまり、迷宮パワーが無くなっても死ぬ。有ってもやがて強力な侵入者によって殺される。生きるにはどんな侵入者も倒し続けなければならぬ。

……これからどうしたら良いんだろうか……。
何も考えられず、迷宮の中、短い通路の先に有る唯一の部屋の中。
唯一用意して有るベッドで眠ることにした。

迷宮情報 2日目

迷宮評価 1

迷宮パワー 205 毎日+5

迷宮コスト 0

迷宮階層 全1階

迷宮部屋数 全1部屋

防人一覧

無し

罾一覧

無し

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4551ba/>

箱庭物語

2012年1月12日18時56分発行